

タイの人口の地域構造

阿 部 和 俊

Kazutoshi ABE

(地理学教室)

I はじめに

本論は、1970~1990年の20年間におけるタイの人口動態を分析することによってタイの地域構造を明らかにすることを目的とする。対象年次は、1970、1980、1990年の3年次とし、とくに1970~1990年の変化を分析することによって現況を明らかにしたい。分析の手順としては、まず全体的な状況を解説し、続いて Region (地域レベル)、Changwat (県) レベル、Municipality (都市) レベルでの分析を行なう。本論では、タイの人口の地域構造を明らかにすることを目的とするが、その要因については、極めて断片的に触れるにとどまる。¹⁾

使用した資料は、Population & Housing Census (1970&1980) と該当する年次の Statistical Yearbook Thailand である。

II 全体的状況

タイの人口は1990年現在5630万人余で、これは国別にみて世界の第19番目である。UN の World Population Prospects : 1990²⁾によれば2050年の推計人口は8,091万人となっていて、世界の第18番目になると予想されている。さらに同書によれば、2000~2005年の人口増加率は1.24%、2020~2050年のそれは0.70%となっている。タイの人口はアジアで10番目(1970年)であるが、2025年ではイランに抜かれて11番目になると予想されてもいる。

タイは習慣的に中央部地域、北東部地域、北部地域、南部地域に四分して分析されることが多い。さらに中央部地域のうちバンコク東南の沿岸部の数県を東南部として区別して五分することもあるが、本論では4地域区分で分析を行なう(図1)。

1990年の4地域の人口は、中央部地域：18366千人、北東部地域：19829千人、北部地域：10994千人、南部地域：7113千人である。南部地域の人口が少ないが、これは面積が狭いことにもよっている。南部地域14県の総面積は70,715km²で全国の13.8%であるから、ほぼ面積に見合った人口であるといえよう(表1)。

北東部地域と中央部地域の人口が多く、1990年では両地域の人口は全国の35.2%、32.6%を占める。ただし面積では北東部が全国土の32.9%であるのに対し、中央部は20.2%でしかない。

表1から分かるように北東部地域と南部地域は対全国の面積比と人口比がほぼ等しいが、中央部地域は人口比が大きく上回り、北部地域は反対に大きく下回る。中央部地域の

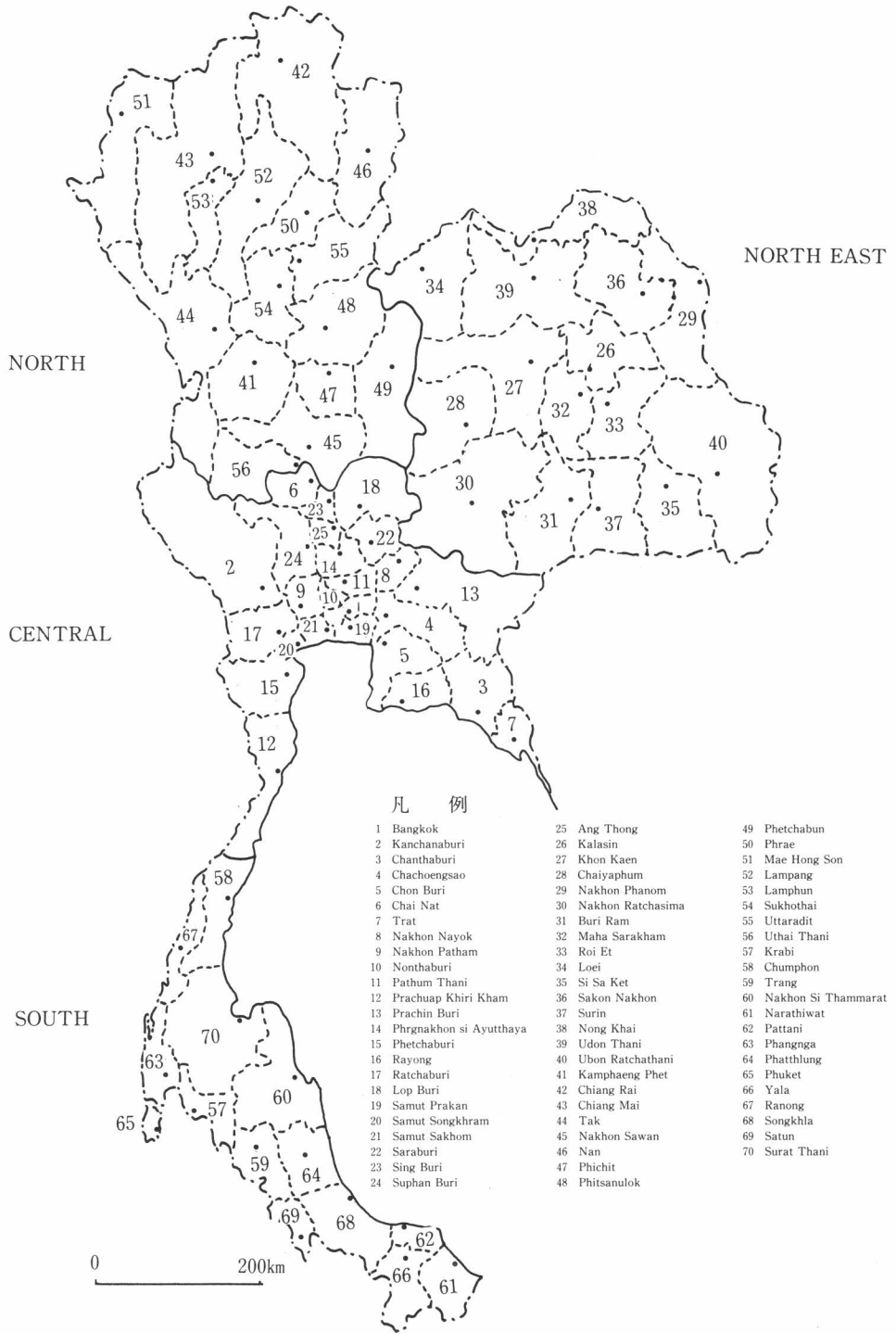


図1 タイの概念図 (県境と県庁所在都市)

タイの人口の地域構造

表1 タイの面積と人口

	面積 (km ²) (全国比)	人口 (千人) (人口密度 人/km ²)			1970年～1990年の 増加人口数 (千人) と人口増加率 (%)	1990年 人口の 全国比
		1970年	1980年	1990年		
全 国	513,115.0 (100.0)	34397 (67.0)	44825 (87.4)	56303 (109.7)	21906(千人) 63.7%	100.0
中央部	103,901.2 (20.2)	10612 (102.1)	14423 (138.8)	18366 (176.8)	7754 73.1	32.6
北東部	168,854.3 (32.9)	12025 (71.2)	15699 (93.0)	19829 (117.4)	7804 64.9	35.2
北 部	169,644.3 (33.1)	7489 (44.1)	9074 (53.5)	10994 (64.8)	3505 46.8	19.6
南 部	70,715.2 (13.8)	4272 (60.4)	5628 (79.6)	7113 (100.6)	2841 66.5	12.6

資料：Statistical Yearbook Thailand

人口が多いのは、ここが伝統的にタイの中心であることと、バンコク大都市圏を含んでいるからであり、北部地域は山岳地帯のためである。

後述するようにバンコク大都市圏³⁾はタイ全市の中で並はずれて多くの人口をかかえている。1970年、1980年、1990年の3年次のバンコク大都市圏の対全国比は、1970年：8.9%、1980年：10.5%、1990年：9.8%と推移してきた。ほぼ全国民の10%が居住していることになる。

しかし、大都市圏は外に向かって膨張するのが一般的である。バンコクも例外ではなく、後述するようにその外延的拡大、即ち周辺地域の人口増加は著しいものがあつた。また、対全国比に変化はなくとも、絶対数は大きく増加したことを留意しなくてはならない(表3)。

1970～1990年の20年間にタイの総人口は、2,190万人余増加した。これを地域別にみると北部地域の増加率がやや低いことがわかる。それでも1990年の人口は1970年の1.5倍にもなっていて、総増加人口は350万人をこえている。増加人口の最も多かつたのは北東部地域であり、それは最も少なかつた南部地域の2.7倍にも達する。このように多少の地域差はあるものの、この20年間、タイの地域別人口はいずれも増加してきたことがわかる。

1970年、1980年、1990年の3年次についてタイの人口ピラミッドを作成すると、1970年では年齢が高くなるにつれて人口が少なくなる完全な三角形の形をしていたが、1980年では10—14才が最多層で、5—9才、0—4才と次第に少なくなっている。1990年ではさらに、5—9才、0—4才の層が少なくなっていて、タイでは次第に人口全体に占める若年層の割合が低下してきていることがわかつた。

9才以下の人口は総数では1970年：10944千人、1980年：11261千人、1990年：9854千人となり、1970年では全体の31.8%だつたのが、1980年では25.1%になり、1990年では18.1%にまで下がつた。

表2は1970～1979年(前半)、1980～1989年(後半)の2期間のタイ全国と地域別人口の

表2 タイ人口の自然増加の状況

	1970年～ 1979年の 自然増加数	同左の 自然増加率	1980年～ 1989年の 自然増加数	同左の 自然増加率
全 国	9026 (千人)	26.2%	7440 (千人)	16.6%
中 央 部	2786 (千人)	26.3%	2346 (千人)	16.3%
(バンコク大都市圏)	(1087 (千人))	(35.3%)	(1008 (千人))	(21.5%)
(バンコク大都市圏 を除く中央部)	(1699 (千人))	(22.4%)	(1338 (千人))	(13.8%)
北 東 部	3515 (千人)	29.2%	2711 (千人)	17.3%
北 部	1477 (千人)	19.7%	1186 (千人)	13.1%
南 部	1249 (千人)	29.2%	1197 (千人)	21.3%

資料：Statistical Yearbook Thailand

自然増加数と自然増加率である。後半の方が自然増加率は低下している。全国で9.6ポイントの低下である。地域別では中央部地域の低下が最も大きく10ポイントの低下であった。最小は北部地域で6.6ポイントの低下である。増加率は基数の大小によって変動するので自然増加数そのものも注意しなくてはならない。

全国的には前半に比べて後半は1586千人も自然増加数は少なくなった。これは出生数の減少によるところが大きい。この2期において前半と後半の死亡数はほとんど変わらない(前半：2377千人、後半：2367千人)のに出生数が減少した(前半：11403千人、後半：9807千人)からである。このことが既述した人口ピラミッドの変容に影響していることはいうまでもないことである。

自然増加数を細かくみると一様ではないことがわかる。バンコク大都市圏と南部地域では、前半と後半ではわずかに79千人、52千人しか減少していないのに対して、バンコク大都市圏を除く中央部地域は351千人、北東部地域は804千人、北部地域は291千人も減少しているのである。

バンコク大都市圏へは全国各地から若者が流入し、彼らが居住することによって若年層の比率が高く、子供の出生数も多いという結果になっているのであろう。バンコク大都市圏を除く中央部地域、北東部地域、北部地域では若年層の大量流出による出生数の減少が生じていると思われる。そしてこの背後には全体として合計特殊出生率の低下という流れもあるものと推測される。

しかし、南部地域はその他の地域とやや性格を異にしている。出生数はあまり大きく減少していない。後述するように、ここは都市人口率も高い。南部地域はタイの中で異なった人口構造、あるいは人口流動をしているのかもしれない。

たとえば、南部地域からはバンコク大都市圏への人口流動はあまり多くなく、南部地域の都市部への移動が多いといったようなパターンである。実際、1980年の Population & Housing Census ではバンコク大都市圏を除く中央部地域、北東部地域、北部地域からバンコク大都市圏への人口移動数は144千人、120千人、43千人であるのに対し、南部地域のそれは34千人にとどまっている。人口移動の自県内完結率もバンコク大都市圏を除く中央部地域が66.7%、北東部地域が68.6%、北部地域が、77.2%であるのに対して南部地域は82.5%という高率を示しているのである。

III 県人口の状況

タイには1990年現在72の県がある。1970年の統計では70県であった。まず、この間の変化を説明しておく、1970年には北部地域の Phayao と北東部地域の Mukdahan, Yasothon は独立した changwat ではなかった。Phayao は Chiang Rai から分離し、Mukdahan と Yasothon はそれぞれ Nakhon Phanom と Ubon Ratchathani から分離している。そして、1970年には Thon Buri が1つの県として掲載されているが、1980年以降は Phra Nakhon と合わせてバンコク大都市圏となっている。従って統計上1990年は72の県とバンコク大都市圏の73となる。しかし、この20年間の変遷をみるために、1970年時点の区画で分析を行なうため、Phayao, Mukdahan, Yasothon はそれぞれ Chiang Rai, Nakhon Phanom, Ubon Ratchathani に含めて分析を行なう。ただし、Thon Buri はバンコク大都市圏に含まれたため、1970年でもバンコク大都市圏に含めて考察する。従って分析の対象となる県の数は69であり、バンコク大都市圏を加えて70となる。

県別人口をみると、バンコク大都市圏は別格として、1990年現在100万人以上の人口をもつ県は14を数える(表3)。その分布は北東部地域に多くて9県、北部地域に3県、南部地域に2県、そして、中央部地域にはバンコク大都市圏以外100万をこえる県はない。それは図1をみてもわかるように、中央部地域の諸県は面積が小さいことにもよる。従って人口密度を計算すると、バンコク大都市圏はとびぬけていることと、中央部地域の人口の稠密さが理解されよう(表1)。北東部の諸県は人口が多く、最小の Loei でも552千人の人口をかかえている。

一方、人口の少ない県として20万人以下の県を列举すると、Trat(中央), Mae Hong Son(北), Phuket(南), Ranong(南)の4県である。Trat は中央部地域に属するとはいえカンボジアと国境を接するタイ湾に面した県であり、Mae Hong Son はタイ北西部地域でミャンマーと国境を接する県であり、険しい山岳地帯の中にある。Phuket は最近観光地として脚光を浴びているが、マレー半島の西、アンダマン海に浮かぶ面積543km²の島である。また Ranong はマレー半島でミャンマーと国境を接する位置にある山がちな県である。この4県はいずれもタイの中の辺境に位置している(図1)。

だが、辺境に位置する——バンコクから遠く離れて隣国と国境を接する——からといって必ずしも人口が少なくなるということはない。カンボジアと接する Ubon Ratchathani, ラオスと接する Chiang Rai は既述したように100万をこえる人口をかかえる大県である。前者はメコン川支流のムン川流域の農業地帯であり、後者は古来より交通上重要な地位をもっていた県である。

これら諸県の1970~1990年の人口動態をみて、何よりも特筆すべきことは、人口減少を示した県が1つもないということである。

表4は、1970~1990年の人口増加数と1970~1990年の人口増加率を示したものである。最高の増加率を示したのは Samut Prakan 県であるが、1970~1990年のその増加人口は526千人、率にして159.9%の増加率である。100%をこえる増加率を示した県は全部で実に7県を数える。地域的には中央部地域が多くて6県であり、南部地域に1県である。中央部地域の6県のうち、Samut Prakan, Nonthaburi, Prachin Buri はバンコク大都市圏に接しているが、Kanchanaburi, Chanthaburi, Trat はバンコクから遠くはなれた位置に

表3 県別人口の推移 (1970年～1990年)

(千人)

	1970年	1980年	1990年		1970年	1980年	1990年
(中央部地域)	(10612)	(14423)	(18366)	(北部地域)	(7489)	(9074)	(10994)
Bangkok 大都市圏	3077	4697	5545	Kamphaeng Phet	340	508	668
Kanchanaburi	329	482	698	Chiang Rai	1112	1321	1543
Chanthaburi	216	298	439	Chiang Mai	1026	1155	1376
Chachoengsao	355	445	583	Tak	217	272	354
Chon Buri	542	694	911	Nakhon Sawan	759	942	1088
Chai Nat	262	318	356	Nan	311	362	449
Trat	94	148	197	Phichit	440	537	559
Nakhon Nayok	163	206	229	Phitsanulok	492	632	787
Nakhon Patham	419	526	657	Phetchabun	525	680	955
Nonthaburi	269	370	669	Phrae	366	421	494
Pathum Thani	234	320	453	Mae Hong Son	104	133	173
Prachuap Khiri Kham	249	342	425	Lampang	583	649	773
Prachin Buri	424	567	877	Lamphun	311	335	418
Phrgnakhon Si Ayutthaya	502	602	685	Sukhothai	402	500	593
Phetchaburi	290	365	428	Uttaradit	323	401	461
Rayong	251	339	454	Uthai Thani	178	226	305
Ratchaburi	483	635	720				
Lop Buri	464	572	747	(南部地域)	(4272)	(5628)	(7113)
Samut Prakan	329	485	855	Krabi	149	216	298
Samut Songkhram	163	168	207	Chumphon	235	311	398
Samut Sakhom	200	247	358	Trang	327	447	519
Saraburi	353	433	535	Nakhon Si Thammarat	929	1214	1427
Sing Buri	165	199	231	Narathiwat	327	398	565
Suphan Buri	562	709	828	Pattani	330	419	538
Ang Thong	217	257	279	Phangnga	135	170	213
				Phatthlung	305	410	461
(北東部地域)	(12025)	(15699)	(19829)	Phuket	100	131	168
Kalasin	571	723	895	Yala	199	266	357
Khon Kaen	1049	1254	1681	Ranong	59	84	117
Chaiyaphum	632	818	1060	Songkhla	622	818	1090
Nakhon Phanom	565	769	923	Satun	117	156	223
Nakhon Ratchasima	1494	1948	2384	Surat Thani	437	588	738
Buri Ram	800	1098	1442				
Maha Sarakham	613	733	901				
Roi Et	785	948	1229	資料：1970年についてはPopulation & Housing Census			
Loei	325	441	552	1980年 " Population & Housing Census			
Si Sa Ket	796	1063	1336	1990年 " Statistical Yearbook Thailand			
Sakon Nakhon	598	806	974				
Surin	755	1000	1289				
Nong Khai	444	618	879				
Udon Thani	1113	1462	1825				
Ubon Ratchathani	1485	2018	2459				

タイの人口の地域構造

表4 県別の増加人口数（1970年～1990年）と人口増加率

	1970年～ 1990年の 増加人口数 千人	1970年～ 1990年の 人口増加率 %		1970年～ 1990年の 増加人口数 千人	1970年～ 1990年の 人口増加率 %
(中央部地域)	(5286)	(73.1)	(北部地域)	(3505)	(46.8)
Bangkok 大都市圏	2468	80.2	Kamphaeng Phet	328	96.5
Kanchanaburi	369	112.2	Chiang Rai	431	38.8
Chanthaburi	223	103.2	Chiang Mai	350	34.1
Chachoengsao	228	64.2	Tak	137	63.1
Chon Buri	369	68.1	Nakhon Sawan	329	43.3
Chai Nat	94	35.9	Nan	138	44.4
Trat	103	109.6	Phichit	119	27.0
Nakhon Nayok	66	40.5	Phitsanulok	295	60.0
Nakhon Patham	238	56.8	Phetchabun	430	81.9
Nonthaburi	400	148.7	Phrae	128	35.0
Pathum Thani	219	93.6	Mae Hong Son	69	66.3
Prachuap Khiri Kham	176	70.7	Lampang	190	32.6
Prachin Buri	453	106.8	Lamphun	107	34.4
Phrgnakhon Si Ayutthaya	183	36.5	Sukhothai	191	47.5
Phetchaburi	138	47.6	Uttaradit	138	42.7
Rayong	203	80.9	Uthai Thani	127	71.3
Ratchaburi	237	49.1			
Lop Buri	283	61.0	(南部地域)	(2841)	(66.5)
Samut Prakan	526	159.9	Krabi	149	100.0
Samut Songkhram	44	27.0	Chumphon	163	69.4
Samut Sakhom	158	79.0	Trang	192	58.7
Saraburi	182	51.6	Nakhon Si Thammarat	498	53.6
Sing Buri	66	40.0	Narathiwat	238	72.8
Suphan Buri	266	47.3	Pattani	208	63.0
Ang Thong	62	28.6	Phangnga	78	57.8
			Phatthlung	156	51.1
(北東部地域)	(7804)	(64.9)	Phuket	68	68.0
Kalasin	324	56.7	Yala	158	79.4
Khon Kaen	632	60.2	Ranong	58	98.3
Chaiyaphum	428	67.7	Songkhla	468	75.2
Nakhon Phanom	358	63.4	Satun	106	90.6
Nakhon Ratchasima	890	59.6	Surat Thani	301	68.9
Buri Ram	642	80.3			
Maha Sarakham	288	47.0	資料：表3に同じ		
Roi Et	444	56.6			
Loei	227	69.8			
Si Sa Ket	540	67.8			
Sakon Nakhon	376	62.9			
Surin	534	70.7			
Nong Khai	435	98.0			
Udon Thani	712	64.0			
Ubon Ratchathani	974	65.6			

ある。Kanchanaburi はミャンマーと、Chanthaburi, Trat はカンボジアと国境を接している県である。とくに Trat は1970年の人口はわずか94千人でしかない県であった。そのために増加率が高くなったということもある。

1990年で人口20万以下の県は Trat を含めて4県であるが、Trat ほかに Mae Hong Son は66.3%、Phuket は68.0%、Ranong は98.3%の人口増加率である。

タイではバンコク大都市圏への人口移動がきわめて大きく、それがここの激しい人口増加をもたらしている。しかし、バンコク大都市圏への大量の人口移動にもかかわらず、すべての県で大きな人口増加があるというのは既述したように高い自然増加率によるものであろう。

1970～1990年の県人口の増加状況を図化したものが図2と図3である。図2をみると、20年間に50万人以上人口が増加したのは、中央部地域の Samut Prakan と北東部地域の7県である。Samut Prakan の人口は1970年には329千人であったが、1990年には855千人となった。人口増加率は既述のように159.9%で中央部地域諸県中のみならず全国第1位である。

バンコク大都市圏の近郊に5県の比較的人口増加が小さかった県が認められるが、これはバンコク大都市圏への人口流出によるものではないかと推察される。

図3は県別の人口増加率を図示したものである。20年間の人口増加率が25%以上50%未満にとどまった県がタイを南北に連続分布しているのが印象的である。この地域は北部の山岳地帯に源をもつチャオプラヤ川の流域にあたる。なぜ、この地域に低人口増加率県が多く分布するのかは今後の解明課題であるが、注意すべきは、20年間に25%以上～50%未満という増加率はタイの中では低いものの、人口増加率としては決して低い率ではないということである。また、人口増加数そのものも、既述の通り小さいものではないことを留意しておく必要がある。

IV 都市人口の状況

タイの人口に関する統計では、Municipality という用語で都市的人口が表示されている。Municipality の中には Tesaban Muang と Tesaban Tambon が含まれるが、本論では両者を合計した人口を Municipality 人口（都市的人口）とみなして考察をすすめる。Municipality 人口の推移を分析することによってタイの人口の地域構造をより深く検討したい。

表5は1970年1990年の4地域の Municipality 人口率を示したものである。タイ全国では、1970年の Municipality 人口率は13.2%であったが、1990年には17.7%に上昇した。人口数でいえば、4553千人から9943千人へと5390千人の増加であり、率にして118.4%の伸び率である。

3地域で Municipality 人口率がだいたい2ポイント前後増加した。中央部地域の率が高いのはバンコク大都市圏を含んでいるためであり、これを除くと、9.5%（1970年）、12.0%（1990年）となって、他地域に比べて特に高率ということはなく、南部地域より低い値となっている。Municipality 人口率の高さをもって都市化の進展指標とするなら、1970～1990年の20年間にタイは都市化が進んだ～都市部居住者が増加したこと～ことが明らかであり、バンコク大都市圏を別格とすれば、南部地域が一番高く、次いで中央部地域、

タイの人口の地域構造



図2 県別人口増加数 (1970—1990)

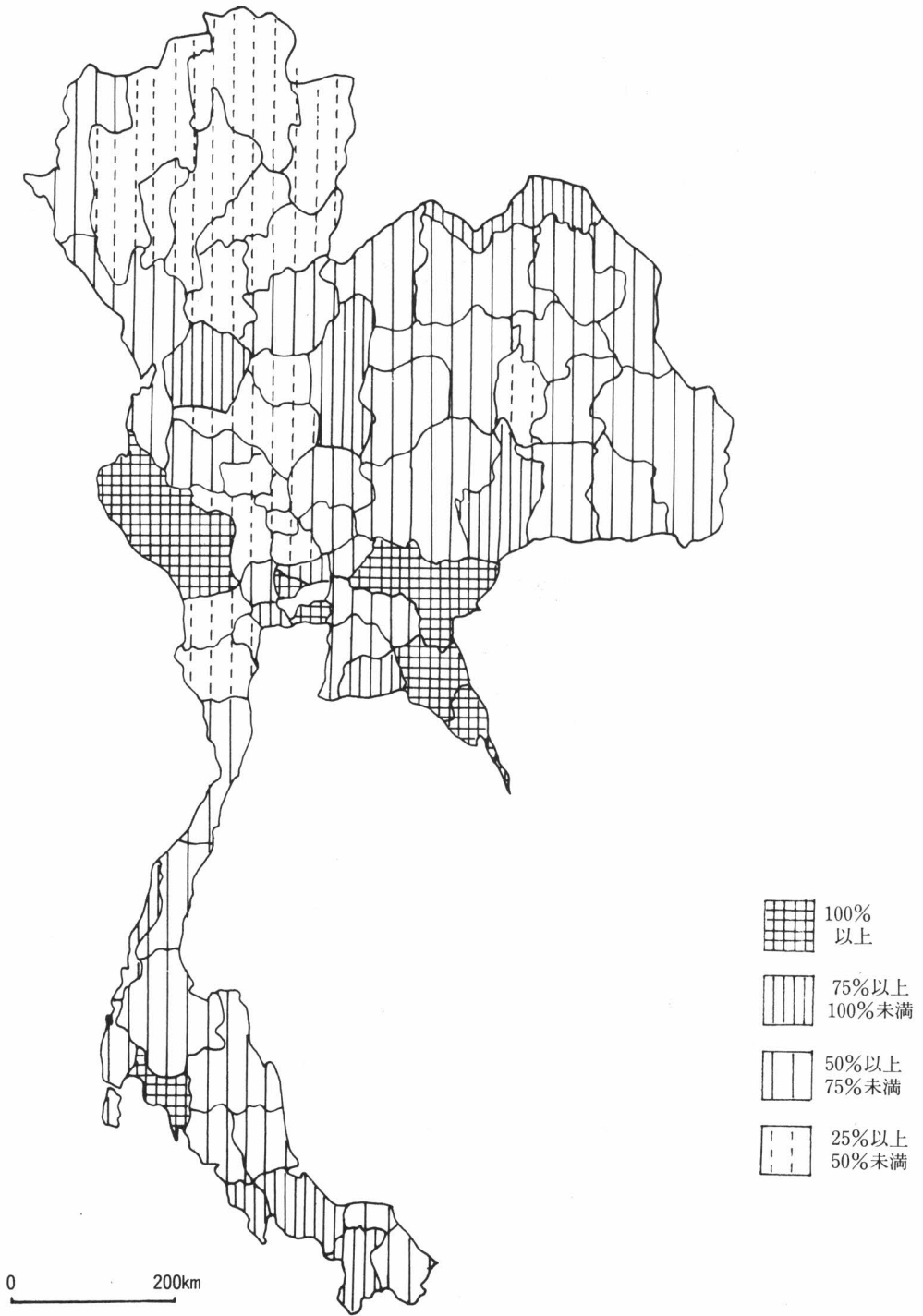


图3 县别人口增加率 (1970—1990)

表5 Municipality 人口率

	1970年	1990年
全 国	13.2%	17.7%
中 央 部 地 域	30.3	38.6
（バンコク大都市圏を除いた中央部地域）	（ 9.5 ）	（ 12.0 ）
北 東 部 地 域	3.7	5.7
北 部 地 域	5.9	7.6
南 部 地 域	10.7	12.5

資料：Population & Housing Census 1970
Statistical Yearbook Thailand 1991

北部地域、北東部地域という順番である。

Municipality 人口率をさらに詳しくみていこう(表6)。69県のうち、1970年で最も Municipality 人口率が高かったのは、Phuket の34.4%、最も低かったのは、Si Sa ket の1.7%である。1990年では、最高は Nonthaburi の38.7%、最低は Chaiyaphum の2.4%となっている。地域的にみると、1970年には10%

の Municipality 人口率をもつ県が1つもなかった北東部地域でも、1990年には Khon Kaen と Nakhon Ratchasima で10%をこえた。

20年間に Municipality 人口率が減少した県も22を数える。しかし、Municipality 人口そのものが減少したところは1県もない。Municipality 人口も増加したが、それ以外の人口増が多かったことになる。

人口の増加を比率で示すと、基数が多ければ、かなりの人口数でもそれほど高率にはならないし、その逆も生じるので、次に絶対数をとりあげて、この間の推移をみてみたい。

表6には1970～1990年間のMunicipality 人口の増加数と増加率も示されている。既述したように、この20年間でMunicipality 人口が減少した県は1つもない。Municipality 人口が10万人以上増加した県は5県を数え、最多増加人口県は Nonthaburi で224,580人の増加であった。Nonthaburi は増加率でも661.0%を示した。ここはバンコク大都市圏の北隣に位置しており、バンコク大都市圏の増加人口の受け皿地区であろう。

Municipality 人口の増加が大きければ、増加率も概して高率となるが、先の Nonthaburi の661.0%を筆頭に、100%をこえる増加率を示した県は27を数える。Municipality 人口の増加率の最低は、Phrae の5.6%であり、因みに10%以下の増加率にとどまったのは、この Phrae と Lampang(9.0%)の2県しかない。ともに北部地域の県である。また Municipality 人口増加率が県人口の増加率を下回ったのは、25県を数えた。Municipality 人口の増加状況、つまり都市化の進展にはかなりの県間差がみられるのである。

これまでの分析で、1970～1990年の間、タイは県間差はあるものの、大きく都市人口が増加してきたことがわかったが、次に地均化を試みることによって検討をすすめたい。

図4、5は1970年と1990年のMunicipality 人口率を示した図である。1970年においてMunicipality 人口率が高かったのは中央部地域南部と南部地域の諸県である。中央部地域の北部に位置する諸県と Tak を除く北部地域、そして北東部地域はすべて10%未満のMunicipality 人口率でしかない。

1990年になると、かなり状況が変化する。南部地域には大きな変化はないが、バンコク大都市圏周辺に15%以上の増加率を示す県がふえ、さらに北部地域で5県、北東部地域で2県が10%以上15%未満のMunicipality 人口率を示すようになった。北東部地域の大半が1970年次と変わらず5%未満のMunicipality 人口率でしかないことを考慮すると、都市化の進展には大きな県間差があったことがこれによって明らかとなる。

表6 県別 Municipality 人口の状況

	1970年 の M.人口率	1990年 の M.人口率	1970年～ 1990年の M.人口 増加数	1970年～ 1990年の M.人口 増加率		1970年 の M.人口率	1990年 の M.人口率	1970年～ 1990年の M.人口 増加数	1970年～ 1990年の M.人口 増加率
(中央部地域)					(北部地域)				
Kanchanaburi	5.0	7.9	39027	238.0	Kamphaeng Phet	3.6	3.4	10445	84.4
Chanthaburi	12.8	13.7	32544	117.4	Chiang Rai	3.1	3.9	26528	77.4
Chachoengsao	7.8	8.8	23753	86.1	Chiang Mai	8.2	12.0	81173	96.9
Chon Buri	11.7	20.7	124804	196.6	Tak	13.7	11.4	10646	35.8
Chai Nat	5.1	5.4	5821	43.7	Nakhon Sawan	7.7	14.5	98625	167.9
Trat	8.4	5.4	2756	34.8	Nan	5.7	5.1	5156	29.1
Nakhon Nayok	5.0	5.2	3673	44.9	Phichit	6.8	10.4	28362	95.0
Nakhon Patham	8.2	6.8	10699	31.2	Phitsanulok	6.9	10.0	44517	131.4
Nonthaburi	12.6	38.7	224580	661.0	Phetchabun	3.2	4.7	28460	169.0
Pathum Thani	1.9	3.6	11909	272.8	Phrae	4.8	3.8	985	5.6
Prachuap Khiri Kham	12.2	11.6	18637	61.1	Mae Hong Son	3.8	3.7	2388	60.0
Prachin Buri	7.3	4.8	10924	35.1	Lampang	6.9	5.7	3595	9.0
Phrgnakhon Si Ayutthaya	9.4	10.9	27635	58.7	Lamphun	3.6	3.5	3330	29.4
Phetchaburi	13.6	12.4	13758	34.8	Sukhothai	5.9	7.2	19017	79.7
Rayong	5.9	13.6	46919	316.0	Uttaradit	4.7	8.3	23088	150.9
Ratchaburi	12.4	11.5	23033	38.4	Uthai Thani	5.9	5.9	7584	72.1
Lop Buri	7.7	7.5	20043	56.1					
Samut Prakan	16.8	9.6	26831	48.4	(南部地域)				
Samut Songkhram	18.8	20.1	11032	36.1	Krabi	5.9	6.1	9547	108.9
Samut Sakhom	20.9	19.6	28222	67.5	Chumphon	6.7	4.9	3642	23.3
Saraburi	11.9	24.5	88960	211.3	Trang	12.9	13.7	28858	68.3
Sing Buri	5.5	9.3	12489	138.0	Nakhon Si Thammarat	7.4	7.6	40514	59.1
Suphan Buri	4.8	4.6	11167	41.7	Narathiwat	11.1	12.7	35964	99.6
Ang Thong	7.3	7.4	4656	29.3	Pattani	8.9	9.8	23509	80.3
					Phangnga	10.0	8.2	3881	28.6
(北東部地域)					Phatthlung	4.4	7.3	20102	150.7
Kalasin	2.6	3.7	18505	123.7	Phuket	34.4	27.1	11269	32.8
Khon Kaen	3.6	13.0	180288	472.3	Yala	21.2	25.4	48460	114.8
Chaiyaphum	2.0	2.4	13313	106.2	Ranong	17.3	15.4	7740	75.1
Nakhon Phanom	3.6	6.3	37605	184.5	Songkhla	15.5	22.0	143584	149.2
Nakhon Ratchasima	5.6	11.5	189424	226.4	Satun	6.3	9.6	14158	193.5
Buri Ram	2.1	4.1	45697	278.1	Surat Thani	8.5	11.3	46128	124.6
Maha Sarakham	3.2	4.1	17242	87.5					
Roi Et	2.6	2.7	13114	64.8					
Loei	3.1	3.8	11049	109.0					
Si Sa Ket	1.7	2.6	21739	159.1					
Sakon Nakhon	3.2	2.6	6847	36.1					
Surin	2.2	3.1	23879	146.2					
Nong Khai	4.8	2.7	2162	10.2					
Udon Thani	5.0	4.4	23385	41.6					
Ubon Ratchathani	5.6	6.6	58799	71.1					

資料：表3に同じ

タイの人口の地域構造

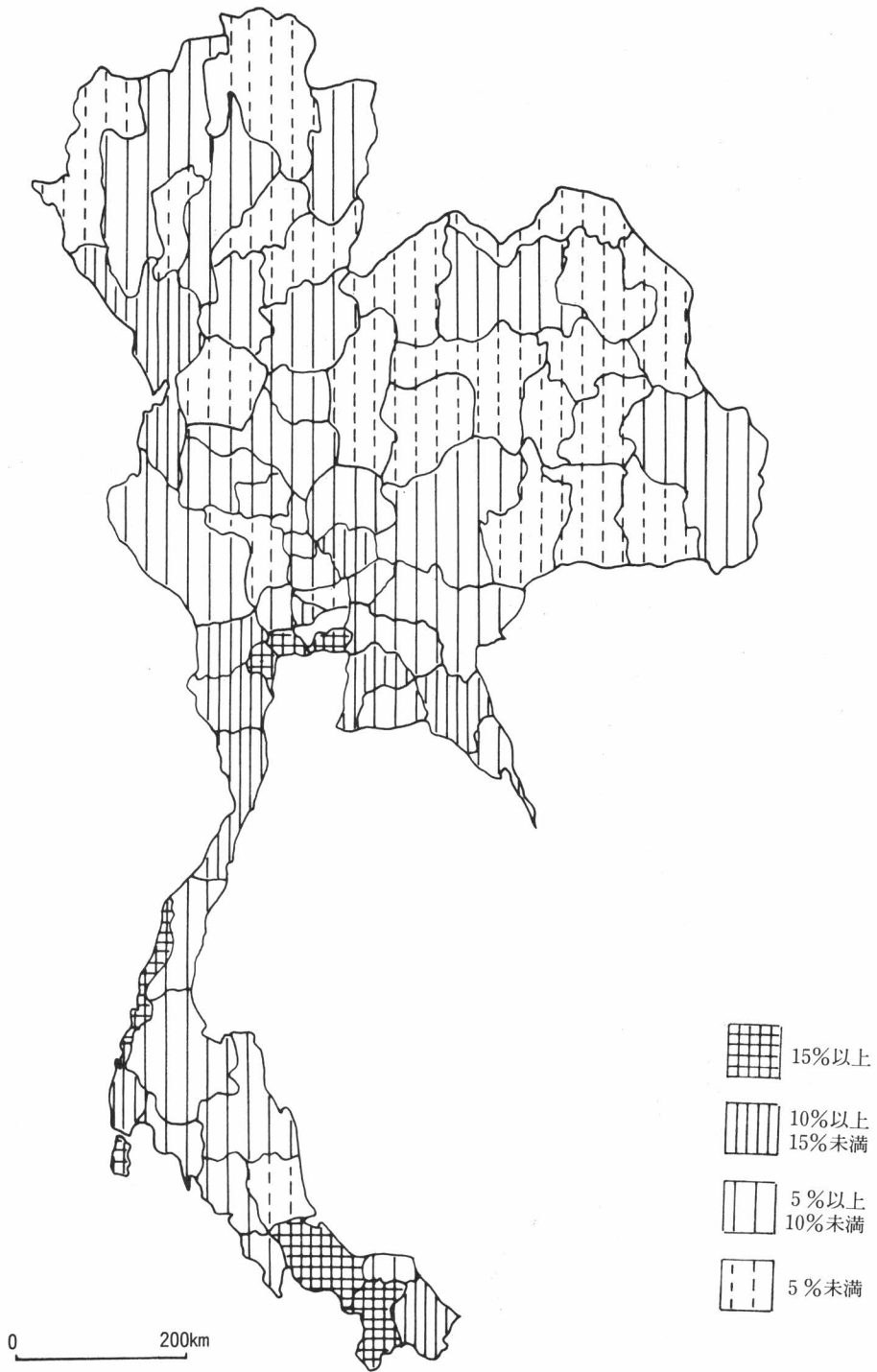


図4 Municipality 人口率 (1970)

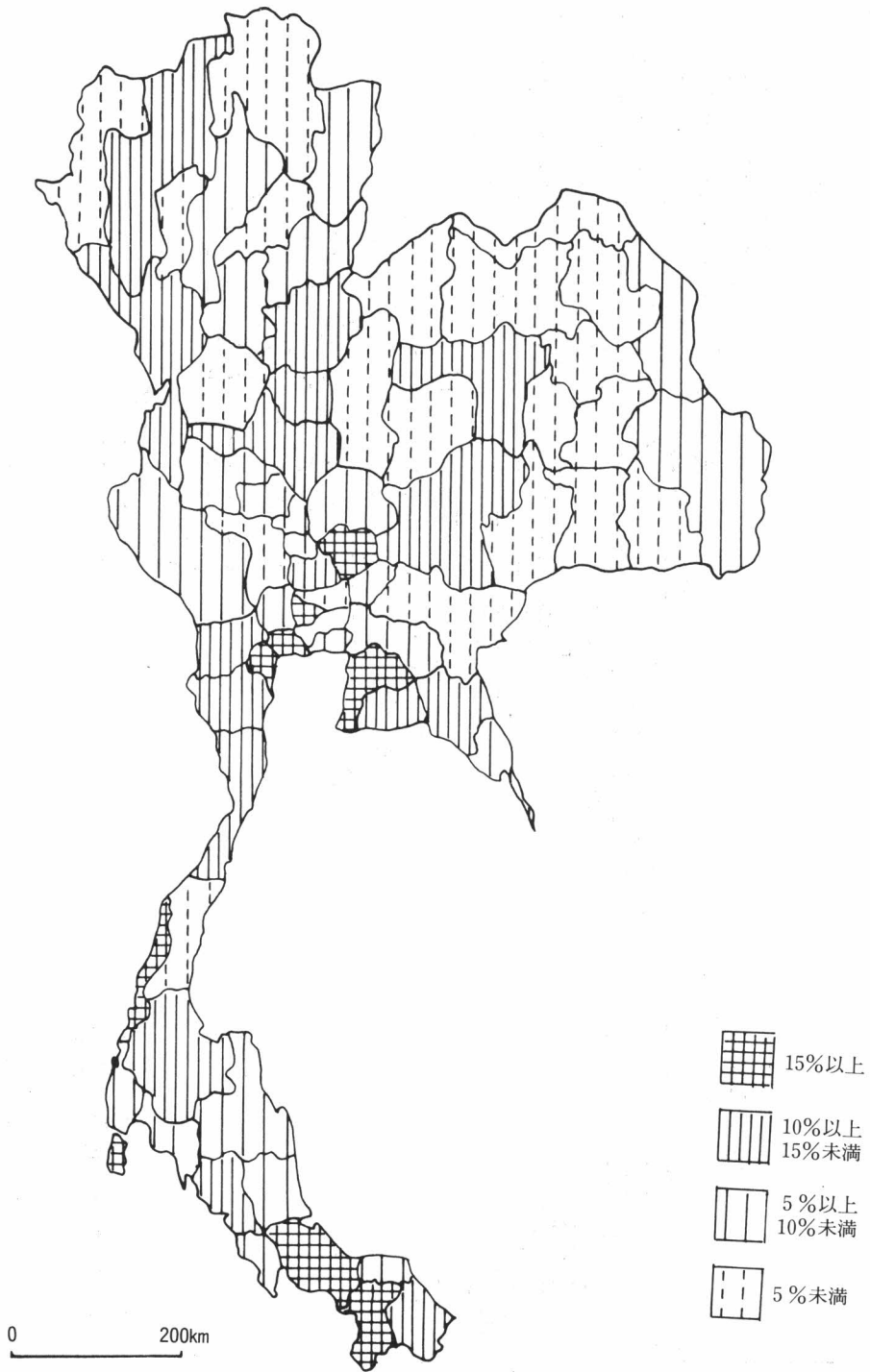


図5 Municipality 人口率 (1990)

表7 タイの人口上位25都市とその人口 (千人)

	1990年	1970年
Bangkok Metropolis	5547	3077
Nonthaburi	248	27
Nakhon Ratchasima	204	66
Chiang Mai	165	84
Hat Yai	141	48
Khon Kaen	132	29
Nakhon Sawan	108	47
Ubon Ratchathani	99	41
Songkhla	83	41
Udon Thani	80	56
Phitsanulok	78	34
Nakhon Si Thammarat	73	41
Samut Prakan	72	47
Yala	69	30
Saraburi	65	25
Pattaya	62	不明
Phra Nakhon Si Ayutthaya	61	37
Samut Sakhon	56	34
Trang	48	33
Chon Buri	46	39
Rayong	46	15
Phuket	46	34
Rachaburi	45	32
Nakhon Pathon	45	34
Lampang	44	40

資料：Population & Housing Census
Statistical Yearbook Thailand

北東部地域で Municipality 人口率が10%をこえたのは、Khon Kaen と Nakhon Ratchasima であるが、この20年間にともに Municipality 人口は18万人余の増加をみた。両県はもともとタイの中では人口の多い大県である。したがって Municipality 人口のわずかな増加で Municipality 人口率が高くなったのではない。

各県の Municipality 人口増加率をみると、20年間に300%をこえた県は Khon Kaen (472.3%)、Nonthaburi (661.0%)、Rayong (316.0%) の3県を数えた。100%～300%の増加率を示した県は全国で24県にのぼったが、地域的には北東部地域に多い。中央部地域は低い伸び率にとどまった県が多いが、しかし県別の Municipality 人口の増加をみると(表6)、増加率ではそれほど高くなかった中央部地域の諸県が人口増加数そのものは少なくなかったことが理解される。

続いて Muang と Tambon の分析に移ろう。分析の対象として1990年の人口が10,000人以上の Muang と Tambon をとりあげる。1990年にそれに該当するものは80である。表7はこの80のうち上位25の1970年と1990年の人口数を1990年の順位に従って示したものである。

両年次とも人口上の第1位は言うまでもなくバンコクである。その状況は首位都市と表現するにふさわしい卓越ぶりである。バンコク大都市圏は1970～1990年の20年間に247万人増加した。増加率にして80.2%である。周辺⁴⁾まで含めると453万人から854万人へ増加した。バンコク大都市圏とその周辺へのこの20年間の人口集中は大変な量であったことがわかる。

第2位は、1970年では Chiang Mai であったが、1990年では Nonthaburi である。既述したように、Nonthaburi はバンコク大都市圏に北接する県の中心都市であり、バンコク大都市圏の膨張の受け皿となった都市である。1970年では、わずか27,465人の人口で、全市中23番目にすぎなかったが、20年間に22万人余も増加した。実に803.3%の増加率である。第3位と第5位は両年次とも Nakhon Ratchasima と Hat Yai である。両市はそれぞれ138千人、93千人の人口増加をみた。

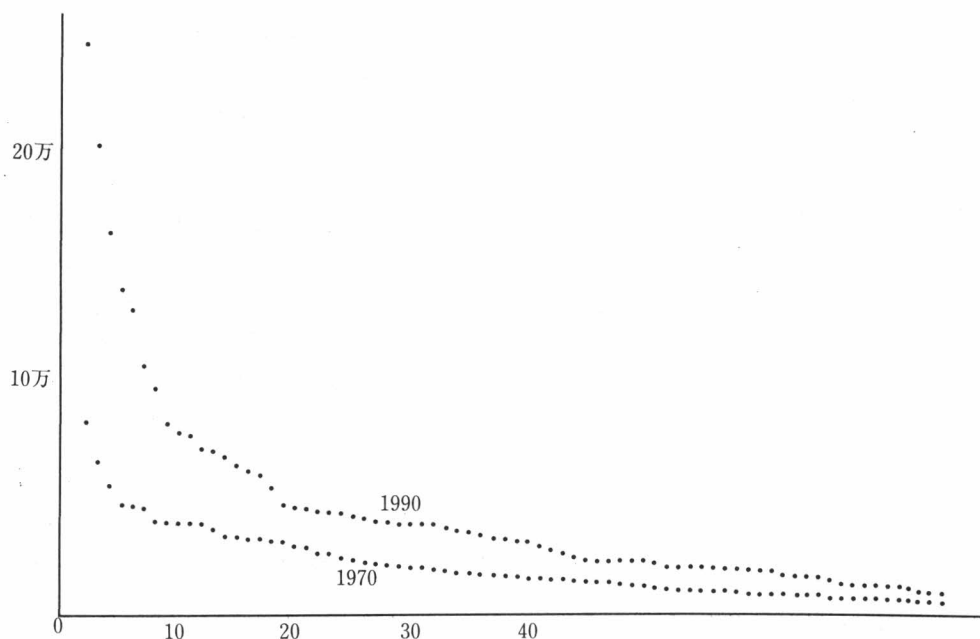


図6 都市人口の順位規模曲線
(ただし、第1位のバンコク大都市圏は記入されていない)

図6は1970年と1990年の人口を指標とした上位都市の順位規模曲線である。20年間に各都市の人口は増加したので、このような図化を行うと、点の分布は一樣に上昇するが、上位都市ほど増加人口が多かったことが明白である。

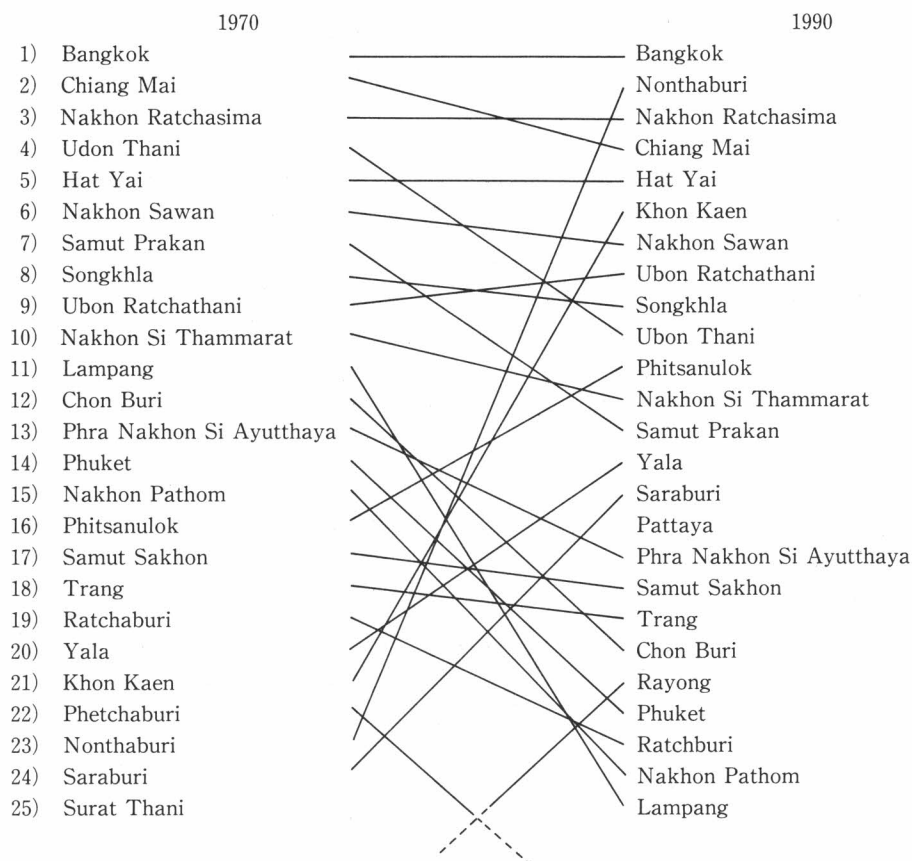
この2つの順位規模曲線には、さしたる特徴はみあたらない。つまり、順位規模法則にあてはまるような点の分布もみられないし、中心地理論的な都市の階層性も指摘できない。

1970年のグラフでは、第7位の都市 (Samut Prakan) と第8位の都市 (Songkhla) 以下との間に格差があり、第8位以下の都市には連続性が強いのに対し、第7位までの都市には差があるように見える。同様に、1990年のグラフでは、第18位の都市 (Samut Sakhon) と第19位の都市 (Trang) 以下との間に類似の関係があるように見える。しかし、上位都市間にはより大きな格差が認められるうえ、複数の都市が1つのグループを構成しているような格差ではない。従って、やはり中心地理論的な意味での都市間の階層性は認められないといえる。

しかし、2つのグラフの形が類似していることは指摘できる。つまり両年次とも上位都市間には比較的大きな格差があるが、中位以下の都市 (1970年では Songkhla 以下、1990年では Trang 以下) には連続性が強い点である。このトレンドから行けば、20年後のグラフは上位都市数がさらに増加していることが予想される。既述したように、タイでは全国土で人口が増えてきたが、都市部人口の増加が非都市部人口の増加に比べて大きかった。それも上位都市ほど大きいものであった。将来的にも、この傾向は続くであろう。人口の多い都市ほどより多く人口が増えていくものと推測される。

さて、2つのグラフの形は類似しているものの、都市間の順位は大きく変動した。表8

表8 人口上位都市の1970年と1990年の順位変化



は、両年次の上位25都市の順位がどのように入れ替ったかを示したものである。上位25都市で区切ったのは、1990年の25都市中1970年において含まれなかったのは Rayong のみだからである。その意味では、これら25都市は真にタイの上位都市と言ってもいいだろう。

順位の変動は実に激しいものであった。大きく順位を上昇させたのは、Nonthaburi, Khon Kaen, Saraburi である。一方、逆に大きく順位を下げたのは、Lampang, Nakhon Pathom, Phuket といった都市である。ただし、これらの都市でも人口は増加しているのであるから、衰退をしたということではない。タイの都市中での順位が相対的に低下しただけのことなのである。

従ってすべての都市が人口を増加させた中でおかつ大きく順位を上げた都市というのは、とびぬけて人口増加が大きかった都市である。Nonthaburi や Khon Kaen については既に指摘した通りであるが、Phitsanulok, Yala, Saraburi も負けず劣らず人口増加は大きなものであった。

本論では、これらの都市の人口増加の要因にまで踏みこんで分析する余裕はないが、Nonthaburi については既述したようにバンコク大都市圏の膨張の受け皿地域として人口増加が大きかったことは容易に推測される。Khon Kaen, Phitsanulok, Saraburi については地域の中心都市としての重要性がより高まったことによるだろう。順位はやや低下し

たが依然北部地域の中心都市である Chiang Mai と、順位は変わらないものの人口は大きく増加した北東部地域の Nakhon Ratchasima も同様に地域の中心都市としての重要性の上昇と人口の増加が深く結びついているものと推測される。

V お わ り に

以上、タイの人口の地域構造を分析してきたが、重要な点を結論として指摘したい。

1970～1990年の20年間、タイの人口は大きく増加したが、地域レベルでも県レベルでも減少したところは1つもなかったということをおぼろげにあげなくてはならない。

バンコク大都市圏の著しい膨張をぬきにしてタイを語ることはできないが、今回の分析でもそれは明らかであった。バンコク大都市圏の人口増加は、タイ国内からの人口移動によるところが大きいですが、しかし、だからといって人口減少を示したところが1つもないという事実もまた重要である。この背後には高い自然増加率があった。

さらに、この20年間、都市人口が増加したことも重要である。全体として、確かにタイは都市化をしてきたのである。バンコク大都市圏に限らず、都市、とくに地域中心的な都市の人口が大きく増加していることは、将来のタイの地域構造分析、あるいは地域開発を考えるうえにおいてキーポイントとなるであろう。

都市化が進展したとはいえ、一方において国民の多くが依然として非都市部に居住していることも事実である。今後近い将来、暫らくの間なお一層の都市化がすすんでいくと思われるが、突出したバンコク大都市圏を中心に、明確な地位をもった地域中心的都市が重要な役割を果たすという構造になっていくものと思われる。

本研究は平成5年度科研費(課題番号05044018「途上国における開発行財政の実態と参加型援助導入の可能性に関する研究～タイ東北部ナコン・ラチャシマ県を事例に～」代表者 長峯晴夫 名古屋大学教授)の一部を使用させていただいた。この科研費によって平成5年10月にタイ国において行われたフィールドワークの一部である。このフィールドワークへの同行を許可していただいた長峯晴夫先生に深く感謝するとともに、今年度を最後に名古屋大学を停年退官される同先生に長年にわたるご指導に対する感謝の意をこめて本論を献呈させていただきます。

注

- (1) タイの人口の地域構造については、たとえば遠藤元(1991):北タイ、チェンマイ市の人口成長とその要因, 経済地理学年報 Vol. 37, No. 3 pp. 201～224がある。
- (2) 厚生省人口問題研究所監修 財団法人人口問題研究会編集(1991):『人口の動向 日本と世界 人口統計資料集1990』財団法人厚生統計協会発行p. 19より引用
- (3) 本論でのバンコク大都市圏とは Statistical Yearbook の Bangkok Metropolis のことであり, 旧 Thon Buri を含んでいる。
- (4) ここの周辺とはバンコク大都市圏に隣接する Nakhon Pathom, Nonthaburi, Pathum Thani, Samut Prakan, Samut Sakhon のことである。

(平成6年9月12日受理)